

それと同時に、県や立地自治体だけの再稼働、あるいは施設変更の同意、そのほかのところ、新潟県、糸魚川市も含めてそれは必要ないというのは、これは私はおかしいんでないかなと。被害を受ける可能性のある糸魚川市の同意も要求すべきじゃないかと。今、協定ありますけども、立地自治体とはやっぱり違いますよね。情報提供のレベルということになるわけで、そういう点も先ほど市長のほうから、協議していくっていうことになってると言われましたけども、それもぜひ盛り込むよう要求すべきと思いますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

柏崎刈羽原発に対する新潟県、それから立地自治体等々の協定とはまた別に、当市も入っております全県で組織をしております、市町村による原子力安全対策に関する研究会というものがございまして。この中で協定書を結んでおりまして、1つの市が物を言うということではなくて、全市の中で意見を集約した中で柏崎刈羽原発に対して物言いをする、また、県にもお願いをするというような体制をとっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

これで私の質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を3時55分といたします。

午後3時40分 休憩

午後3時55分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。〔12番 伊藤文博君登壇〕

12番（伊藤文博君）

清政クラブ、伊藤文博です。

本日は、糸魚川市における地方創生政策「まち・ひと・しごと総合戦略」について質問いたします。

国の施策により10月末までに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、その後も、PDCAサイクルを円滑に回していくことにより、継続的改善を行いながら、糸魚川市の活性化を図ることになります。

しかし、時間が極端に限られた中での対応であり、基本的スタンスをしっかりと定め、ポイントを適確に捉えたスタートを切る必要があります。

基本的なことを伺います。

- (1) 総合戦略の実践で、どのような糸魚川市をつくるのか。
- (2) 「チーム糸魚川」になにを求め、どのように展開するのか。
- (3) 「チーム市役所」とはどのような姿を求めているのか。
- (4) 産官学金労言の連携をどのように継続するのか。
- (5) PDCAサイクル実践の考え方は。
- (6) 総合戦略の構成について、国に対する表記と市民に分かりやすい表記が必要だがどうか。
- (7) 上位計画の総合計画の策定が後になるが、整合性をどう図るのか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、稼ぐ産業の育成や、移住、Uターンの促進により、地域の産業の担い手の確保を図るとともに、若者や女性の就労、結婚、子育ての希望をかなえ、子供からお年寄りまでみんな健康で、暮らしやすいまちづくりを推進し、将来も持続可能な糸魚川市を目指してまいります。

2点目につきましては、チーム糸魚川は定住人口の維持と交流人口の拡大により、持続可能なまちづくりを目指すものであり、関係団体とのチームワークを高め、今回の総合戦略においても、ともに考え、一緒に行動する組織であると考えております。

3点目につきましては、職員一人一人の意識改革により、チーム糸魚川の構成員として職務を超えて庁内、あるいは庁外の方と連携し、チーム糸魚川の目標の実現に向けて市民の皆さんとともに考え、行動することが必要と考えております。

4点目につきましては、今回の策定に当たって多くの団体の皆様と懇談をさせていただき、ご意見やご提言をいただきました。これを新たなスタートとして、引き続き情報提供や懇談の場を持ちながら、総合戦略の施策を協働で推進してまいります。

5点目につきましては、多くの団体に計画段階で参画いただいたものと考えております。今後も協働の取り組みにより施策を推進し、効果検証への参画や共有を通じて、改善、見直しを行い、着実に成果を出していく体制を構築してまいります。

6点目につきましては、市民にもわかりやすい概要版の作成を考えております。

7点目につきましては、総合戦略は人口減少対策について特化したものでありまして、次期総合計画の策定の過程で総合戦略との整合を図り、必要により総合戦略の改定も視野に入れ進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

先般の特別委員会でも市長のほうから、これまでもいろんな施策を講じてきたという話の中で、地域振興、人口対策にこれまでも取り組んでいる中で、この国の地方創生政策が打ち出されたわけですが、これを捉えてその段階、そういう状況の中でその施策が出てきたということについて、市長はどのように捉えられましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々も30年先を見据えた中の、持続可能なまちづくりという形でスタートを2年前にさせていただいた部分でございますので、それを踏まえると同じ考え方、同じ方向の中で出てきたと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

国による施策であるから計画を定めなきゃいけないと考えるか、それとも前向きに捉えていくかというところの違いだと思うんですね。

それで質問は、どのような糸魚川市をつくるのかですから、この総合戦略の中に、どういう糸魚川市をつかっていきたいんだという姿を、やはり明らかにしていく必要があるだろうと。1、基本的な視点、考え方というのがありますが、そこに求める将来像が明らかにされるべきである。また後に、総合計画が今度は新しく作成されますが、そしたらまたそこで、先ほど市長が言われたように、改定するなり引用するなりもあるでしょうが、一度この戦略の段階で、明確にしなければならぬというふうには私は思うんですね。そこが読み取れるような書き込み方をしてほしいということです。思いは、先ほどの答弁でわかりました。しかし、それがここにしっかり明記されていかなければいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに将来像という1本の言葉では、今のところあらわしておりません。前に配付した総合戦略の素案の中では、9ページのところに基本目標として4つの目標を掲げて、その下に4つの基本目標に込めた思いということで、先ほど市長答弁しました内容が書かれておりますけれども、そういう意味では他の地域に負けない勝ちゆくまち、そういったものが重要になってくるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

将来像というのはグランドデザインというような言い方もされますが、示せる程度は、どういう場面で示していくかによってもやっぱり違うと思うんですね。その将来像を実現するための施策があって、その結果として、具体的な数値目標や重要業績評価指標、KPIというのが示されていく。目標とする姿がイメージできて取り組む姿勢も明確になり、そしてチェックもまた明確になっていくということだと思えますよ。

この施策の中に出てくるんではやっぱりだめでしょう。最初にそれを明らかにした中で、その方針の中で、これら全てのことが書かれていきますよというふうに、派生していくようにしていかなければいけない。要するに、わかりやすいかどうかですよ、わかりやすいかどうか。今では、やっぱり読んでいって初めてわかるような計画はだめだと思いますね、一番肝心なところが。だから、そこを一緒にくりしてもらいたいと思います。今の9ページのものが、悪いと言ってるんじゃないですよ。やはりそのつくり込み方を、もう一工夫してほしいということを言っているんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回の総合戦略の中では人口ビジョンで当市の課題、それから方向性を整理する中で、その課題を解決するための施策という形で総合戦略のほうをつくっております。

確かに全て読まないで、なかなかわかりづらいという面もあるかと思いますが、総合戦略がある程度固まった時点で、いわゆるわかりやすいような概要版、そういったものについて検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

どうしても決まった書式でつくっていくということになっていくんでしょうけど、参考にした

書式もよくないんでしょうね。市長の公約では、30年持続可能なまちづくりと言っていますが、どのようなまちを30年持続していきたいのかということにもつながるわけですよ。ですから先ほど言われたことをやって、それでこの9ページに書かれていることですが、そういうまちをつくり上げて30年持続可能にしていきたいということを言われているんですけど、それがやはりみんなつながっていかなくちゃいけない。市長があらゆる場面で言われていることが、公約として言っていることも、総合戦略も、総合計画もつながっていかなくちゃいけないし、それを受け取る側の市民がそれを感じ取れて、そしてそれに乗っかって、自分たちも協働の世界をつくり上げていくんだということにならなくちゃいけないということだと思っんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく30年先という形の中で、今と同じ人口を確保せにゃいかんという感覚を持ちながら、今進めてきておりました。そういう中で、今、国の総合戦略という形で出てきたものですから、逆に、それに今度また合わせる形の中でそちらのほうに、総合戦略のほうに力を入れて、今、我々が進めてきたものもその中に入れさせていただいて、進めているのが実情だと思っております。

基本的な将来像は、やはり「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」が、一番の最上位にあるものと思っております。目標は、これから皆さんにお示しした中で、しっかり位置づけしていかなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

ちょっと最初のとこへ戻りますが、これまでの総合戦略の前にもいろいろな取り組みをしてきたもの、それではやっぱり功を奏したのもの、そうじゃないものもあるわけですね、効果がなかなか出てこないもの。そういうものを検証、分析していくことが、まず重要であって、その改善策、プラス国の方針による施策というものが、この総合戦略の中に盛り込まれていかなくちゃいけない。

実はPDCAサイクルのいちばんしょっぱじめは、過去のチェックから始まっているというところが、この総合戦略のつくり込みのところだと思っんですよね。この段階で、本来、将来像を示す必要性を感じ取ってもらわなくちゃいけないし、まず、それを理解してもらおうというところが、スタートラインじゃないでしょうかね、と思っんですよ、つくり方の問題ですから。何で、さっとそれを考えたつくり方にしていって言えないのか、僕は不思議でしょうがない。これはこのままにしといて、概要版でわかりやすくつくります。違うでしょう。本文をまずわかりやすくする工夫だっしてしなくちゃいけないじゃないですか。何ですっと言えないんだ。物すごい不思議だわ、どうですか。部長、もしあったら答えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現在の総合計画で、「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」という都市像を目標に施策を進めております。新しい新総合計画、これから策定しておる最中でありまして。その中で現在の都市像がいいのか、あるいは7年後の都市像を変えるべきなのかという議論も、総合計画審議会の中でご議論いただく予定にいたしております。

そういう中で喫緊の課題として、人口減少対策が大きな課題であります。国の総合戦略の流れもあって、今回、市の総合戦略を現在策定して、お示ししてるところであります。そういう中で、将来に向かっての都市像みたいなものをぱっと出せばいいんですけども、現在、新総合計画を策定中だということで、そこら辺との整合性を今後とっていくという中で明らかにしていく、また、改定をしていくということで、取り組んでいく考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

せっかく部長も出てもらったけど、全然、答弁になってません。9ページに書いてあることを、もうちょっとわかりやすく書いたらいいんじゃないですかと言ってるんです。決められないという話をしてるんじゃないでしょう。今、総合計画策定中だから決められないという話は、9ページに書いてあるじゃないですか。何でわかりやすい書き方にしないのということだけを言ってるんですよ、何で踏み込めない、1つ、おかしいって、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

この間、特別委員会の中で、総合戦略についていろんな意見を聞いております。それを受けて、今、素案の内容についても見直しのほうを進めております。やはり文書自体も変えていきますし、どこかで少しいわゆる新たに取り組む事項とか、拡充する事項、そういったものをわかりやすく説明する部分も加えたいなと思っておりますので、議員の思っているようなイメージとは、ちょっと若干違つかもしれませんが、さらに見直しに、今、着手している最中というところです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

何も私が言うとおりにつくりなさいと言ってるわけじゃないですよ。わかりにくいと言うたら、わかりやすくしようとするのが当たり前でしょう。書かれているものをちょっと構成を変えることによって、わかりやすくなるかもしれないんだったら、工夫するのが当たり前じゃないですか。そ

れを「うん」と言えない体質がおかしいと言ってるんですよ。

何よりも市長の考え、市長の目指す糸魚川市が、市民全体や、それから市の職員全体にも、明確に伝わっていくということが大事なわけですよ。さっき総合計画の中では、こういうものがあるという話もありましたが、それだってここにうたわれていかなきゃいけないじゃないですか。それでPDCAサイクルを回していくんだから、総合計画策定の形でそのキャッチフレーズが変わったら、こっち改定すればいいんだ。できない話じゃないでしょう。総務部長の答弁は、全く本末転倒ですよ。もうちょっと前向きな答弁してくださいよ。時間たつばっかりで、どうしようもないでしょう。ぜひ今後に向けて検討していただきたいと思いますが、副市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

伊藤議員のおっしゃるのは9ページにある基本目標、これが9ページでなくて、本来ですと2ページなりにきちっと明記をすべきだということだと思っております。また、その将来像もこの中できちんと位置づけした上で、きちんとすべきだということで理解をしております。その辺につきましては、検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

計画によっては一番最初に市長の顔写真が出て、市長の言葉としてその辺が出てきたっていいわけじゃないですか。大事な総合戦略ですもの、工夫してくださいよ。

チーム糸魚川ですが、これはもう何度も質問してきました。チーム糸魚川とは何か、どのような姿を求めているのか。そしてチーム糸魚川に、どのような役割を果たしてほしいのかというところですね。我々はもう少し、先ほどの市長答弁より広範囲の糸魚川市よくするためのチームというものを、多分、議員みんなイメージしています。もう一度、明確にお願いします。わかりやすく、どうぞ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

チーム糸魚川が発足して、もうすぐ2年が過ぎようとしているということで、現在、25団体から参加していただいております。当初は本当に白紙の状態からスタートして、定住人口の維持と交流人口の拡大により、30年後も持続可能なまちを目指すという目的のもとに、まずはできることからスタートするという形で進めております。

昨年については、糸魚川応援隊や新幹線開業に向けた取り組み、メーリングリストによる情報交

換を進めてまいりましたが、今年度はさらに総合戦略の懇談会の場も設けて、意見交換をしております。やはり今後も徐々にではありますけれども、さらに連携が深まるような、そういった取り組みを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今の答弁を聞いてやっぱり感じたんですけど、市としてはやることはやっている、ある程度ね。ただ、我々が受けているチーム系魚川というイメージとはやっぱり違うんですよ。この地方創生に関しては、僕はもうチーム系魚川なくして地方創生なしだと思っています。やはり地方創生の場面で、相当大きな役割を果たしていってもらわなきゃいけない。

それは会議体じゃないはずなんですね。25団体の代表が集まって会議をする場ではなくて、これは何回も言ってますけど、知恵を出して実践していくチームだと。ある意味、これは概念であり、意思であるということだと思っただけですよ。連携して活性化を図るチームでなければならない。だからチームとしての姿を実現していくための後押しを、市がやっぱりしていかなきゃいけないわけですよ。会議でおさまっているようなチーム系魚川では本来ないはずなんですね。この辺は、どう考えているんでしょうかね。どうもギャップがあるように思います。我々議員仲間で話しているのと、今の答弁との間にはギャップがある、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当面につきましては、現在の取り組みを継続していきたいと思っておりますけれども、今回の総合戦略の意見交換の中でも、もう一步踏み込んで、分科会的なところで意見交換したらというような提案も出てきましたので、前向きに検討したいと考えております。

ただ、いずれにしても行政側からの押しつけではなくて、参加団体と協議、連携する中で、取り組みのほうは進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

行政からの押しつけではダメなのは、それはもちろんですね。ただ、だけどひとり立ちして、自分たちで発展してくださいよって、ただおっ離しても無理な話ですわね。

昨年、まちづくり団体連絡協議会の会議に出させてもらいました。ここにはやはりチーム系魚川の原型となるすばらしいものがある。我々が連想するチーム系魚川ですよ、そういうふう感じたんですね。

まちづくり団体連絡協議会の成り立ちや活動は、チーム系魚川の全てではありませんけど、重な



る部分が大きいと思います。しかし、それぞれの団体がやっぱり疲弊してきているんですね。疲弊してきているというのは、例えばヒスイマラソンの中止も、その1つのあらわれだ。もとの志を生かして継続するための工夫が、必要な段階に入ってきてるんですよ。今までの枠組みとは違うもので運営していくと。チーム糸魚川の取り組みの中に、どういう考え方を組み入れていって、こういうものとまた一緒になって動いていけるかというところが、本当の糸魚川のまちづくりにとっては重要になってくると思うんです。現場で支えてくれてる人たちを、今、そういう人たちの団体ですよ、まちづくり団体連絡協議会というのは。そういう人たちを、どういうふうにチーム糸魚川の中に、その実践部隊を組み入れていくか。そして今の活動を維持するか、また、より活発にしていけるか、これは大事だと思うんですけど、考えたことないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに市内のいろんな団体の活動を見る中で、いわゆる「疲弊」という言葉がいいかどうかかわからないですけども、活動が停滞してきたり、活動ができなくなってきたり、そういったところは見受けられるようになってきたというふうに思っております。その1つの大きな原因というのは、やはり人口減という、それから高齢化という、そういったものも大きな要因だと思っております。

そういう中で今回の総合戦略というのは、そういったものを総合的に活性化していく。行政だけが引っ張るんじゃなくて、いろんな団体と連携しながら、それぞれの団体が当事者意識を持って進めていく。そういうことは、やはりこれからより一層重要になってくるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

いや、それじゃだめなんだ。各団体が疲弊してきていたものを、どういう仕組みをつくって補完をしていくかということなんですよ。例えばこの人たちは、やっぱり自分たちでもう考えてますよ。例えば事務局を置いて、そこがあらゆる団体の事務局を一気に引き受けてやれないものかと。それには当然、市の援助も必要になってくるんですけど、やっぱりそういうことをしっかり考えていかなきゃいけない。というと市の当局と、そういう団体の人たちが腹割って話す協議の場が必要だということになるじゃないですか。それで本当にいい道を探っていく、お互いにね。そういうことを考えていかなきゃいけない、チーム糸魚川というのは、本当はそういうことなんじゃないですか。

さっきチーム糸魚川の中で協議したら分科会協議をしていきたいと、これは会議体じゃないですか。それを否定はしませんよ。だけでもっとざっくばらんにいろんなものを協議して、実践をしていくところが必要なのが、チーム糸魚川じゃないかなと思うんですよ。その先の発展形がなければだめだ。実際にやってる人たちを、どうして取り込まないかという話にもなっていくわけですよ。だけど、それを今やるとか、やらんとかという返事をくれというんじゃなくて、やはりそういう検討をしてもらいたいということですね。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

そういう考え方からすると、今回の総合戦略策定に当たっては、地域については18地域、それから産官学金労その他ということで、32団体の方々と意見交換をしております。

多分、行政がつくる計画で、これだけ多くの団体と意見交換してつくった計画は、今回が初めてでないかなと思ってます。やはりそういう意見交換する中で行政が気づく部分、また、各団体が気づく部分、そういった部分があるかと思ってます。

そういう中では、やはりこういった意見交換の場というのを、これからもっともっと重要にしていきたいと思えますし、各課においても各団体との意見交換の場を通じて、施策に反映していくような取り組みが重要だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今回の取り組みを否定するものではないです。今後、発展させていくにはどうするかという、チーム系魚川をもっとよくするためにどうするか。チーム系魚川には本拠地と、やっぱり中心になる人物が必要です。これは役所が事務局的な立場を担うとしても、やはりそういう場がないと、さっき言ったざくばらんな協議というのは会議じゃ無理なんです。そこをしっかりと見て、チーム系魚川の本拠地をつくる、そこに熱心な人たちが集まってくる場にしていって、いろんな話がそこからいろいろ生まれてくるということが、チーム系魚川の姿じゃないんでしょうか。私はもう全くそれ以外にないと思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

私も理想形は、そういう形だと思っております。ただ、今のチーム系魚川でそこまでやれるかというと、そこまでの形にはなっていないというふうに思っております。そういう意味ではチーム系魚川がさらに発展して、理想的な形にもっていけるような状況が見える中ではそういった拠点という、そういった部分についても考えてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

だけど最初は受け身じゃだめなんです。やっぱり市がぐいぐい押して、推進していくようなと

ころがないと乗ってこないです。だって心配なんだもん、みんな。自分がやりますって言って、自分が最初から責任を負ってやる気にならないでしょう。やっぱり市がやりますって言って乗ってきてもらわなかったら、それは無理ですよ。だからそうだったらじゃなくて、そうしなきゃだめなんだ。そういうふうな機運になったらやるんじゃないで、そういうふうにしていかなきゃだめなんです。「チーム系魚川」という言葉は耳ざわりはいいが、本当に機能するチームをつくるというのは大変なことですよ、極めて難しいことだと思います。現状の取り組みの中では、このままだと行き詰まりですね。失敗をおそれずに、チャレンジしていくべきだというふうには私は思います。

例えば、市内に就職希望の学生がいる。A社に試験に行きました。残念ながら、ふるいにかけて落ちました。じゃあその人は、また考えてどこかへ行きます。でも、これはハローワークと本人の動きだけじゃないですか、どこに拾い上げてやる仕組みがあるか。チーム系魚川に企業関係者がたくさんいて、そういう横のもし情報共有できるような仕組みがあれば、そういう学生がいるなら、ぜひうちに来てくれという話にもなっていくかもしれないでしょう。チーム系魚川って、そういうチームになるべきじゃないでしょうかね。ぜひもう1つも2つも早く踏み込んで、対応してもらいたいと思うんですが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

総合戦略を実践していくためには、今おっしゃられるように市民と行政が気持ちを1つにして、本音で語っていきながら実践していくことが大事だと思っております。その1つとして、今、伊藤議員が、就職のマッチングの例を挙げられたんだと思っております。いろんな分野において、そういう取り組みが必要だと思っております。行政のほうから巻き込む、あるいは市民のほうから行政が巻き込まれるということが、とても必要だと思っておりますので、ぜひ実践のために今おっしゃられるようなことを検討して、1つでも2つでも形にできるようにしていかなければならないと思いません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

チーム市役所、長年の課題であり、また、終わりのないテーマである行政改革のかなめとなるのが、職員の意識改革ですよ。チーム市役所こそ、その打開された姿のあらわれではないかなと思います。地方創生総合戦略の策定と実践は、意識改革を図る絶好の機会となると考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

総務課長（岩崎良之君）

お答えします。

チーム市役所につきましては、職員がチーム糸魚川の一員として市の課題に取り組む方向性を理解した上で、自分が取り組むことを理解し、職場内で共有したりしながら、ボトムアップしながら課あるいは役所を越えて水平展開しながら実践していくことが必要だと思いますし、今おっしゃったように今回の戦略等も通じながら、職員の意識改革をしていくことは必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今回、特別委員会側から提案した内容の中に、チーム市役所の再生ということで、市役所が一丸となって地方創生に取り組む機運の醸成が必要である。それぞれ個人の担当分野だけではなく、糸魚川市全体に目を向けた取り組みが必要であるし、相互に干渉し合えるような環境をつくり上げなければならない。相互に干渉し合える環境というのは相当、公務員にとっては壁のような気がしますけどやれますか、どうやってやりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに縦割りの組織の中で相互の壁をなくして進めるというのは、非常に大変なことだと思っております。そういった取り組みの1つとして、毎週火曜日に各部長と総務課長、企画財政課長、それから企画主幹による会議を開催しております。この会議の中では各部の情報共有、それから情報共有だけじゃなくて、やはり市としての方向性といえますか、そういった部分についても協議をして、さらに必要があれば、その上の市政運営会議に上げるというような形で、そういった部分で横の情報共有、連携、そういったものも実際努めているという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

例えば工事で言いますと、安全ミーティングをやります。安全ミーティングのルールがあるんですね。他人の意見を絶対笑わないとか怒らない、いろいろルールがあります。やっぱりこの火曜日に行われている会議でも、やはり本当にお互いに干渉し合うんだぞという意味を徹底して、確認してルールづくりしてやらないと、情報共有はしても意見は言えないと、ほかの部署には。そうならないですか。なっとるような気がするんだけど、完全にはないとは言わんけど、言いにくいでしょう。やっぱりそれをしっかり打ち破るルールづくりが必要だと思うんですけど、どうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

私もこの4月からその会に参加しておりますけれども、そういう意味ではある意味、自由闊達な意見交換ができていないかなと思ってます。

ただ、本当にその課の内情がよくわかっていない部分というのもありますんで、そういった部分では若干問題があるのかなと思いますけれども、やはり全市的な課題、いわゆるその部の課題が全市的な課題になるおそれがあるというような部分では、本当に闊達な意見交換ができていないものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

私が今、全市的な課題となるものについて意見交換だけでなく、やはり他の課の仕事の内容についても、自分がやってるつもりで意見交換できるような環境をつくっていかなくちゃいけないということなんですね。今、いい感じでやっているんでしたら、それをもっと発展させてもらって、庁内全体がその空気でやれるようにしてもらいたいと思います。

今回の地方創生の庁内委員会のメンバーは庁内検討委員会が会議ではなくて、チームとなって庁内全体を巻き込んでいかなければならない。庁内検討委員会のメンバーは、それができる人材を選ばなければならぬ。部署での水平展開には、やはり影響力が必要であるということが意見として書かれてるんですが、この部署全体を巻き込むためのベストの人選となっているか。または、そういう教育をしながら進めているかどうかですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

人選については、私としてはベストなものというふうに思っております。

ただ、そういう中でしっかり進んでいるかという形になると、やはり庁内委員だけでは不十分な面もあるかなと思います。そういう中で、庁内委員だけじゃなくて各課に戻して議論をするようにということで指示をしますし、ワークショップ等も取り入れる中で、現在、進めているという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

部署の中で水平展開されるということが一番大事ですから、やはりそこをしっかりとやってもらいたい。きょうの質問が終われば、それでいいわけじゃないですから。

そして特別委員会からの施策提案に対する回答の取り組み、回答がありますよね。これは全部、

総合戦略に取り入れられているわけでありませぬから、総合戦略が決まったらこの提案が、どこかへ飛んでなくなっちゃうということになる。だけど、それじゃまずいですね。やはり考え方としてありますよというものを考えとして持っていながら、PDCAサイクルの中に生かしていってもらいたいと思うんですが、そういうところの連携。この後に委員会がなくなって計画だけがあって、それを各部署が実践していく段階で、どういうふうにつなげていきますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

特別委員会の提言を、今後どういうふうに生かすかということかと思っております。

現状の総合戦略の中で、生かせるものは生かしたというふうに思っております。その後、どうなるかっていうと、悪く言えば、ひょっとしたら忘れ去られてしまうかもしれないと思っております。

ただ、それだけじゃなくて、やはり今回の各議員からの提言というのは、各課、担当者が見ているものと思っておりますので、そういう中では、今後の施策に生かされるべきものもあろうかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

この特別委員会からの提案は、先進地でもやってる例が多いんですよ。だから非常にいい例ですから、やはりそういう観点で後に生かしていくようにしてもらいたいということ。

それから市役所は大きな組織で、定期的な異動がありますよね。どうやって事業の縦横の連携をとっていくのか。部署が違えば関係ないじゃ済まされない話ですし、また、異動したら関係ないでは済まされない。ここのところが大事で、どのような取り組みもそういう考え方があると頓挫してしまう。常任委員会でも特別委員会でも現課長に、前の課長はこういうことを言ってたけどどうしたと言ったら、引き継ぎありませんでしたっていう答弁が多いんだけど、これをどうしていくかです。それじゃなきゃ、それができなきゃチームじゃないでしょう。異動のことも含めて、どう取り組んでいくかですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

異動したときの引き継ぎについては、規定の中で引き継ぎをしております。ただ、その中で課長が、今までやっていた業務の全てをうまく短時間のうちに引き継ぎができたかという部分については、欠落した部分も今おっしゃられるようにあったんだと思います。

それらについては、やっぱりその後の時間も含めて課題について連携をとりながら引き継ぎ、あ

るいは今までのやり方はこうだったんだけども、立場を変えてみたらこういうやり方がいいんじゃないかということも含めて話をしながら、実践に対応していくということが必要だと思っておりますので、そういう意味でのチームの連携が必要だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

だから異動の仕方、例えば課長補佐と課長は一緒にかわらないとか、やっぱりそういうことも重要じゃないですか。課長補佐が重要な役割、課長がかわるときは、やっぱりそういうところをしっかり考えて、異動はしようがないんだ、その後はちゃんと引き継いでくれよではダメですよ、やっぱりもう一工夫欲しいと。

それから産官学金労言の連携ですが、国に言われなくてもチーム系魚川という考え方が系魚川市にある。さっきから、そのことをまだ足りんと言いながら、こう言うのもおかしいですけど、チーム系魚川となり得るか。産官学金労言という新しい言葉が出てきて、その人たちがチーム系魚川となり得るかということですね。チーム系魚川に産官学金労言の考え方を取り入れていくかということですね、わかりやすく言うと、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

産官学金労という団体で、今、チーム系魚川に、それぞれこれに該当するような団体というのは加入していただいております。じゃあそれらの団体が全てチームワークをもって、いろんなことができるかということ、やはりその団体によっては相反するものを持っている場合もあるわけです。ただ、それはそれとして、やはりこういった団体が集っているいろんな意見を交換し合うという、そういった部分については、やはり非常に意義があるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今、別々に意見聞いたわけじゃないですか。やっぱり寄ってもらった中で意見交換していく場というのは、また発展性があるだろうということになってきますよね。策定後の取り組み、PDCAサイクルにもかかわってもらおうということもあるんじゃないですかね。これから作り込んでいってほしいけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当然、計画策定というのは、ある意味スタートだというふうに思っております。計画の実施に当たっても各団体との意見交換を継続的に実施していきたいと考えておりますし、団体独自に実施する事業、そういった動きもありますので、今後とも意見交換や情報交換する中で、連携は深めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

その考え方を実際に移していくということが、なかなか難しいというところがあると思うんです。質問をすりゃ、当然、そういうふうに答えますよね。しかし、それが実際に有効に動いていくということがなかなか難しいんだと思いますね。

産業界との連携ですが、産業振興は全てのかなめであって、働き口がなければ若者は定着しないし、それから福祉の財源も確保できない。そういうことで糸魚川創生という意識を、産業界とどのように共有していくとか。これはふだんの活動というか、かかわり合い方というのが非常に重要になってくると思うんですが、これはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

やはり私自身も糸魚川市の今後の人口減対策を考えたときに地元産業の振興、それが一番重要なことというふうに思っております。そういう面では今回、意見交換の場も産業界、産業界でいくといわゆる商工会議所、商工会のほかに、やはり農業分野であったり、生産業分野であったり、林業分野であったりということで、いろんな団体の方と意見交換してますし、中には1回だけじゃなくて2回、3回と意見交換した団体もありますんで、そういう意見交換を通して、さらに産業発展、振興に進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

これからが大事なんですね、産業界との連携は、そういうふうに考えてもらいたい。

次は学、教育ですが、0歳から18歳を糸魚川市にいながら、高校の充実は非常に重要な中で、どうしても高校は県であるという意識が消えない。制度的には県ですけど、地元関連の中でのかかわりというのは、もっともっとやっぱりふやしていかなければいけないと思うんですけど、この辺はどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕



企画財政課長（藤田年明君）

人口減対策を考えたときに、教育というのは非常に重要な部分だと思ってます。当然、一般的な教育もそうですし、子育ての部分でもそうですし、それともう1つが、やはり市外から人を呼ぶ場合の教育水準、そういったものがやはりある程度ないと市外から人を呼べない。特に、お医者さんみたいな部分については、そういった教育というのも非常に重要な分野だと思っております。

議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後4時45分 休憩

午後4時45分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

市内3校との連携ということ、0歳から18歳をうたっている子ども一貫教育では大切なことと考えております。それぞれの3校の独自の取り組みを教育委員会としても支援をし、連携を図っていきたいというふうに考えております。また、3校が地元の企業と連携をしたり、また、中学生との連携、協力ということも考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

これは意見ですけど、今、白嶺高校の学級減の問題が挙がっていますが、やはり3校の魅力アップだと思うんですね。糸魚川高校も含めて、海洋高校も含めて、やっぱりそこをしっかりと市の教育委員会として考えていてもらいたいし、支援できるものはしていただきたいというふうに思います。

大学との連携ですが、現在、いろいろ大学と連携があります。その取り組みを総合戦略の中でどう捉えて生かしていくか、さらに一步踏み込んだ関係づくりに結びつけていく、大学との、そういう工夫はないんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

ただいま大学との連携ということで、各地域に大学生が入っていろいろな企画をしたり、地元の仕事を手伝ったりということを行っております。これについては、やはり地域のほうもそういう若い力が入ってくるとということに大変感謝もしとるし、刺激も与えられるということから、その辺のところを一步一步踏み込んでいく中で、大学連携を行うことによって地域に活力が出てくる。それから大学生も、また糸魚川のほうに来ていただくというような取り組みに発展をさせていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

その概念はわかるんですけど、どういう視点で広がり求めていくかというのが、やっぱり大事だと思うんですね。だから貪欲に可能性を探っていくようなところがないと、多分、そう言ってもなかなか広がらんとしますわ、その視点がないと、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、2つの考え方を持っております。

と申しますのは、我々が糸魚川市に来ていただきたい、糸魚川市としっかりと連携してもらいたいという1つの考え方と、また、逆に大学のほうから糸魚川のほうに求めてくるものがございます。その辺の2つをしっかりと整理しながら進めていきたいと思っておりますので、来るほうは、やはり向こうのひとつ何で糸魚川へ来るんだというところがあると思うんです。それには自分たちに問題解決、課題解決に向けて、そして糸魚川の問題、課題解決に向けて来ていただけるというのがあります。糸魚川のほうといたしましては、糸魚川のやはり特徴をしっかりと理解をして、糸魚川の今進めているものに対して理解をしながら糸魚川で学べる、また、糸魚川で学習できる環境をしっかりと出していきたいという形で進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

ぜひ大学の研究機関の力をどういうところで借りていくのかというこの視点の中で、来ているところ、例えば学部だとか学科とか研究室とは合致しない場合も、広がりを求めていくというような視点で、ぜひやってもらいたいと思いますね。

次は、金融界ですが、住宅確保資金に関する連携で、施策提案の中にありますね、定住の促進の欄の中で。ところが、ほとんど現状か、せいぜい検討ですね。

実際、この綾部市の例も挙がっているんですが、同行しましたよね。しかし、ほとんど取り組まない。これどうなっとるんですか。相当、効果的な施策だというふうに捉えて我々きたんですが、

方向性としてはどうなのでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

定住促進課長（渡辺 勇君）

綾部市の政策ということで提言をいただいております。それについても、いろいろ生かせるものは生かしていきたいというふうには考えております。

具体的になるということになりますと、例えば金融面では債務保証なり等もしとるんですけども、そこはどうかという考えはありますけども、その辺のところについても、検討していきたいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

だとすりゃ回答欄が違うんじゃない。考えていないと言い切っちゃっております。検討していきたいなら、そういうふうを書いてもらわないと、全然、意味が違うじゃないですか。特別委員会でこの説明がなかっただけに、なおさらそうでしょう。これどうなんですかね、これみんなそんなことになっていくんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えします。

特別委員会で出した資料の中で、そういうふうに取り取れる、感じられるという点については反省いたします。そういう意味では、また総合戦略のほうを見る中で表現について、また意見等をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

金融界の持つ広い情報も魅力的ですよ。いろんなところで、いろいろなことをやってることが、やはり金融に情報を求めると、例えばその研究機関からの情報をとれる。その辺もうまく連携とってもらいたいんです。ここの出先だけじゃなくて、そういう考え方を持ってもらう、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

そういう面では、1つは地元の糸魚川信用組合と包括的な連携協定させていただいておりますし、この間、市内の金融機関の担当の方と意見交換させてもらっております。そういう中で、そういう意見交換の場とは別に、地方創生の各金融機関のいろいろな取り組みについて情報提供をいただいておりますので、そういったものを情報収集する中で、総合戦略の中にも取り込んでいきたいと思っております。

議長（倉又 稔君）

あらかじめ皆様にお諮りいたします。

本日の終了予定時間が午後5時を超える見込みになってきました。

以上のことから会議時間の延長を行いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

ご異議なしと認め、そのように決しました。

引き続き一般質問を続けます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

ちょっと時間がなくなってきたんで、労働者については働く人の目線が重要ですよ。ここでの意見交換をどうしていくのか。

それから報道については、これも銀行以上に広い情報を持っていると思います。糸魚川駐在の方だけではなくて、組織としてのかかわりを強めていくべきと思いますが、この2点、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えします。

労働者の視点という中では、労働団体との意見交換もやっていますし、うちの市の職員もある意味、労働者ですので、市の職員の若手とか、この間は保母さんの意見ということで聞いております。

それから、言のほうにつきましては、具体的にはまだ総合戦略についての意見交換というのはしてませんけれども、できれば定例記者会見等の場を借りて、総合戦略について意見をいただいたり、それから、いわゆる記者としての目で見たとときの糸魚川市、そういった意見交換というのは、今後、実施したいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

P D C AのC、チェック、またアクトでのかかわりをどのようにしていくのかというところが、やはり重要になってくるとは思いますけど、お願いします。

そのP D C Aサイクルですが、時間的サイクルというのは、どのように考えているんですかね。それとP・D・C・A、それぞれ計画・実行・検証・改善は分担して行うのか、同じメンバーでいくのか、同じ部署なのか、この辺の大体大きな考え方でいいですけど、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

まず、時間的な流れという部分では、はっきり言って、まだ細かなスケジュールというのは持っておりません。ただ、事業の実施っていうことを考えるとやはり予算との関係、そういったものも出てくると思いますので、そういう意味では今やってる事務事業評価、そういったサイクルと合わせるべきかなと思ってます。

ただ、それ1回で終わらせるものでないというふうに思ってます。今回の総合戦略について、いろんな団体と連携しなきゃいけない部分がありますので、いろんな団体と意見交換した後に、今の事業を見直してみる、そういったことが一番重要じゃないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

今回、時間がない中で定めていきますから、1回目のP D C Aの機会は早目にとったほうがいいんじゃないでしょうか。やっぱりそういう臨機応変な考え方が必要だと思いますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回の総合戦略の中ではK P Iであったり、成果指標であったりということで、そういうチェックするための指標が設けられております。ただ、その指標が施策の成果をあらわすのに十分な指標が設定されてないと、的確な評価もできないという形になります。そういう意味では指標の的確化、そういったものも含めて今年度中に、そういったチェックをする機会というのを設けるべきというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

指標に対するチェックというのは、やっぱり順調に流れ出した後だと思うんですよ。やっぱり最初は計画そのものの中身をもう一度洗い直しという作業を、もうすぐやっていかなきゃいけないと思いますね。

そして内部監査との関連ですが、今回の条例改正では臨時監査と、財政的援助団体等への監査ができるようにするという議案が上がっていますが、内部監査の充実ですね、この総合戦略に関してもかかわってくるんですが、考えてないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

現在取り組んでおります内部監査では、この今の評価の内容を取り組む予定はございません。事務事業評価という観点の中で、それぞれ総合戦略の事業等を評価するという部分については、今後、また検討を加えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

内部監査については、本来、糸魚川市がやってる内部監査はミス防止の内部監査ですから、そうじゃなくて、やっぱり業務改善の内部監査でなきゃならんですよ。そういう意味でいうと、やはりこの総合戦略についてもその対象にしていくべきであるというふうに考えますね。これはまた検討してもらえばいいです。

検証するためには総合戦略の詳細計画なり、詳細を整理したものが必要である。例えば次の構成とも絡んでくるんですが、総合戦略のそれぞれ実施事業がどこに書かれているのかということが明確になっていくとか、引用するだけでもいいです。そういうものが必要になってくると思うんですけど、それはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えします。

いわゆる総合戦略に掲上されている事業というのは、ある意味、いろんな個別計画に掲上されている事業が抽出されて、掲上しているものというふうに考えております。そういう中では、やはりいわゆる総合戦略が各計画と、どういう関連があるかわかるようにすべきというふうに考えております。

ただ、今現在で、どのような形で整理するかっていうのは検討中であります。ただ、最低限、その関係がわかるように関連計画の一覧表ぐらいは掲載したいと思っておりますけれども、それ以上の部分については、まだ検討中という状態です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

一覧表がついていて、番号がついていて、番号を引用するようにしたっていいわけですよ。やはり実施していく人もわからなきゃいけないし、読み解く人もわからなきゃいけないということだと思うんですね。

例えば総合戦略の手引きみたいなものに吹き出しで、担当課がこういうふうに考えていますというポイントがあらわれているとか、そういうものがあると思うんです。概要版の中で、また工夫はできるんかもしれませんが、今のこの総合戦略は、塩尻市とほぼ同じですよ。やはり糸魚川市独自のわかりやすい表記が欲しいと思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

今現在、そういった解説版というところまでは考えておりませんが、ただ、いずれにしても、やはりつくって終わりという計画ではないと思いますので、その真意が伝わるような形には、もっていきななきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

あと総合計画との整合性ですが、素案3ページの4、糸魚川市総合計画との関係で書いてありますが、実際、考え方はそのとおりだと思うんですが、検討する段階では視野が狭まって、なかなかつながりにくくなるという、どのように円滑な連携を図るかですね。検討する人間的なものも含めて、お答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現在、次の総合計画の策定に取りかかっております。総合計画審議会の中でも、今回の総合戦略について説明はしておりますけれども、やはり上位計画の総合計画が、総合戦略に縛られるようなことがあってはいけないというふうに考えておりますので、やはり総合計画の審議の過程で問題があれば、下位計画の総合戦略を見直すという、そういうスタンスで進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

さっき言った話ですけど、総合計画にも将来像、グランドデザインが必要です。ここをしっかりと決めていく。総合戦略のほうとも、またそこで整合を図っていく、総合戦略を変えてもいいわ

けですから。これはもう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

現在、総合戦略案の段階でお示ししておりますけれども、総合計画をつくっていく段階で、総合戦略に盛り込まれたものを含めて、総合計画に策定していきたいと思っておりますし、その過程の中で総合戦略のほうを見直すべき点は、また改定、見直しをしていきたいというふうに思っております。相互に関連する中でやっていきます。

将来像についても総合計画の中で、将来の都市像とか目標とする形について明らかにする中で、総合戦略との整合を、また見直しをしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

12番（伊藤文博君）

その総合計画に定められた将来像が、あらゆる計画にうたわれていっていいわけですよ、本来は。それに基づいて各計画が上がっていく、やっぱりそういう流れだと思うんですよ。

多くの計画があって、全て相互の関連があります。それぞれの計画の位置づけを明確にすること、そして各計画の各項目が、どの計画のどの項目と関連するのかを関係づけておいて、これはそうしなきゃいけないですね。日常的に意識できるようにしていく。何か改めることがあれば、そのたびにそういう作り込みをしながら相互の連携を図っていく。下位計画には総合計画があって、何々計画があってこうなるんですよ。これも関連づけた表記をしていくということを行っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後5時06分 延会